

朝日町観光振興計画 概要版

序章 はじめに

計画の策定と目的

- 本計画は、今後「町のまるごと観光地化」を合言葉として、当町の有する固有の魅力ある観光資源と関連コンテンツをこれまで以上に磨き上げ、来訪客のより一層の増加を図り、もって町民との交流の活発化と地域経済の活性化につなげることににより、町民生活の向上につなげていくことを目的に策定するものです。

計画の位置づけ

- 「第6次朝日町総合発展計画（計画期間：平成30年度～令和9年度）」を踏まえる観光部門の基本計画であり、「第2期朝日町まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和2年度～令和6年度）」等の関連計画との整合を図りながら観光施策を体系的に示すものです。

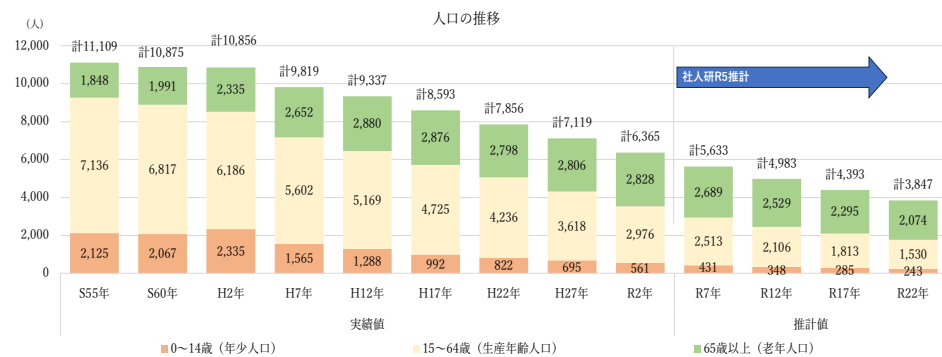
観光振興計画の期間

- 令和6年度から令和15年度までの10年間とします。
- ただし、第7次朝日町総合発展計画の計画期間との整合性を図るために、中間年度（令和10年度）において必要に応じて見直しを行います。

第1章 朝日町の概況

人口の状況

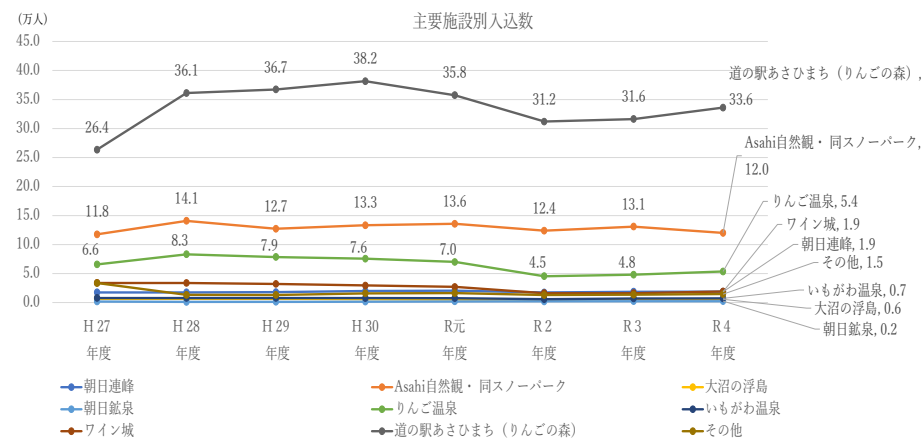
- 総人口は昭和55年と比較して令和2年は約40%減少しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口では、町の観光産業の担い手となる15～64歳（生産年齢人口）は今後さらなる減少が見込まれています。



第2章 観光をとりまく動向

観光入込の状況

- 町内主要施設ごとの入込数を見てみると令和4年度では「道の駅」（33.6万人）、Asahi自然観・同スノーパーク（12万人）、「りんご温泉」（5.4万人）の順に多く、平成27年度以降、同様の順位で推移しています。



朝日町観光の課題の抽出

- SWOT分析手法を活用し、「強み×機会」「強み×脅威」「弱み×機会」「弱み×脅威」の4象限から、朝日町観光の課題を以下のとおり抽出します。

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
機会 (Opportunity)	「強み×機会」 既存の“りんごとワインの里”の地域イメージを根幹としつつ、多様な資源の活用を工夫しながら、時間消費やコト消費の需要に応えるコンテンツの充実などを通じて、地域全体の魅力と訴求力をけん引していくテーマ性を持った観光地域づくりが望まれます。	「弱み×機会」 当町の豊かな自然の保全をはじめ、町並み景観の保全や利便性の高い情報技術の導入と普及、域内二次交通の充実、災害からの安全性確保等、観光関連基盤を充実し、地域の回遊性と経済循環の仕組みを強化していくことが求められます。
脅威 (Threat)	「強み×脅威」 変化の激しい需要を的確に把握しながら、朝日町ならではの自然や文化、歴史、産業、アクティビティ等の地域資源を効果的に活用した、多様で魅力あるコンテンツの磨き上げが必要です。	「弱み×脅威」 地域社会や経済に好循環を及ぼす持続可能な観光地づくりに向けて、町内外のマンパワーを活かした担い手育成と合わせて、専門人材の参画を得ながら、地域観光を総合的かつ中心となってマネジメントする主体を整えることが望まれます。

第3章 観光振興ビジョン

将来像と基本方針

- 時間消費やコト消費への需要が高まりを見せている中で、町民力を活かして他にはない稀有な資源を効果的に活用しながら、長らく不足が指摘されてきた「食」や「体験」といったおもてなしの機能強化等により、町内のいたるところで観光を受け入れる「エコツーリズム」の受け入れ体制を整えて、町外から多くの来訪客を迎え、町民との交流機会を増やし観光産業のすそ野も広げていくことを将来像に据えます。
- 観光振興の将来像を実現するために、4つの基本方針の設定のもと取り組みます。

将来像：「町のまるごと観光地化」によるエコツーリズム※のまち

基本方針1 朝日町の本質的価値の発信強化による訴求力の向上

基本方針2 地域資源を活用した多様で魅力あるコンテンツの提供

基本方針3 観光を支える基盤づくり

基本方針4 観光の総合的マネジメントと受入態勢の整備

※エコツーリズム：自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた。地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みです。

基本目標（KPI※）

- 目指すべき「将来の姿」への到達度を検証するための全体の目標指標と、基本方針ごとの成果指標、及びその計画最終年の目標値を設定します。

全体目標

基本目標指標	令和 4 年度	令和 15 年度	参考
観光客入込数（万人）	57.7	80.0	80 万人※3
宿泊客数（人）	11,358	15,748※1	—
外国人観光客数（人）	250	1,000	500※3
着地型観光ツアーの回数（回）	10（R3）	25	25※3
観光協会等の HP アクセス数（件）	113,638	200,000	150,000※4
道の駅の売り上げ（万円）	25,380	34,040※2	—

※1：R4 宿泊客数/観光客入込数×R15 観光客入込数

※2：コロナ禍期間（R2～4）を除いた H27～R1 実績値からのトレンド推計による

※3：「第6次総合発展計画」より R9 目標値

※4：「第2期 朝日町まち・ひと・しごと創生総合戦略」より R6 目標値

※KPI（重要業績評価指標：Key Performance Indicator）とは、目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するために設定する指標です。

第4章 観光振興プラン

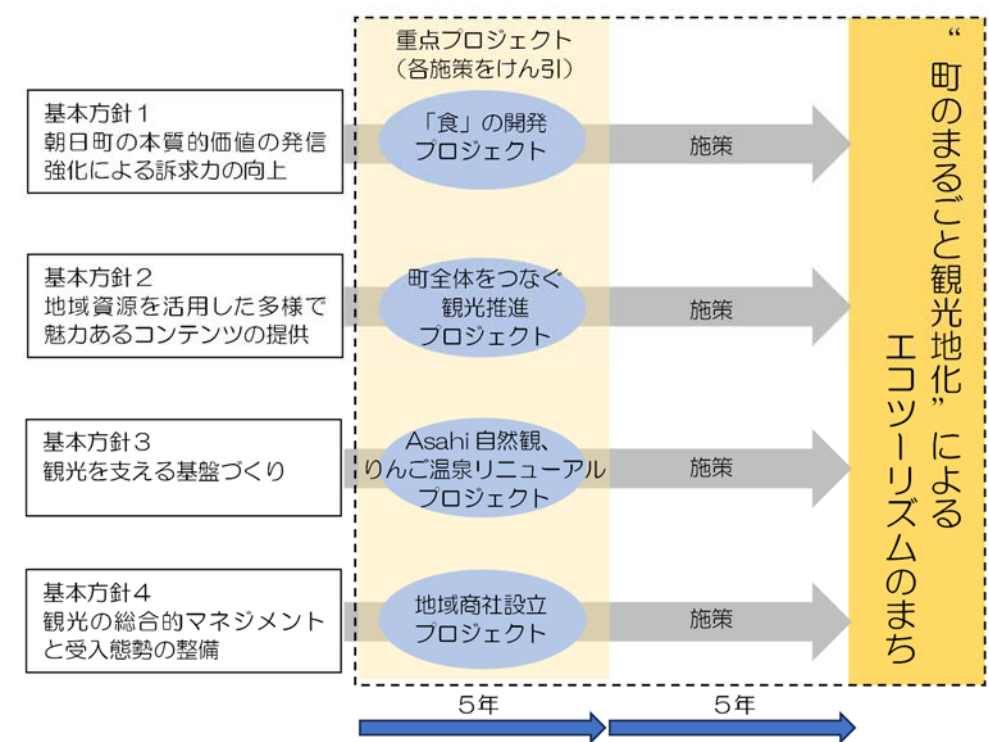
- 4つの基本方針に基づき下表に示す施策展開を図ります。

施策（大）の一覧

基本方針	施策（大）
基本方針 1 朝日町の本質的価値の発信強化による訴求力の向上	（1）エコミュージアムの周知と活用
	（2）朝日町ならではの交流メニューの展開
基本方針 2 地域資源を活用した多様で魅力あるコンテンツの提供	（1）体験プログラムの充実
	（2）その他の観光メニューの充実
	（3）観光産業、関連産業の活性化
	（4）特産品開発と販路拡大
	（5）モデルコースの設定
基本方針 3 観光を支える基盤づくり	（1）観光×商工×農業の取り組み
	（2）観光施設の整備
	（3）観光案内施設の整備
	（4）交通網の整備
	（5）町の回遊性の向上
	（6）情報の受信及び発信
基本方針 4 観光の総合的マネジメントと受入体制の整備	（1）観光人材の育成
	（2）受け入れ態勢づくり
	（3）広域的交流・観光の推進

第5章 重点プロジェクト

- 将来像の実現に向けて、各方針ごとの施策を効果的にけん引するため、計画期間の前半において重点的に実施する“重点プロジェクト”を以下のとおり位置づけます。



重点プロジェクトの概要

プロジェクト名称	内 容
食の開発プロジェクト	観光客の町内での滞在時間を延ばし、経済効果と同時に満足度を高めるために、地域で産出される食材を活用しながら観光客誰もが気軽に、通年で楽しみ、他にはない独自性のある「食」のあり方を検討し、町内に展開します。
町全体をつなぐ観光推進プロジェクト	主要な観光地・施設のみならず、朝日町ならではの生活文化情報等を活用しながら、町内のいたるところで観光客と町民が交流し体験できるプログラムを設定し、観光客が回遊しやすい環境を整えます。
Asahi 自然観、りんご温泉リニューアルプロジェクト	Asahi 自然観とりんご温泉は施設の老朽化や設備機能の効率性低下等様々な課題が顕在化していることから、両施設の機能分担のもとリニューアルを進め集客力を強化していきます。
地域商社設立プロジェクト	観光交流3施設運営会社である株式会社朝日自然観、株式会社りんごの森、有限会社地球耕望の統合により、効率的な施設経営のみならず魅力的な着地型の観光事業や農産物等の販路拡大など地域商社的な法人設立を行います。

第6章 計画の推進に向けて

推進体制と進捗管理

- それぞれの取り組みを総合的にマネジメントし合意形成等を図るための組織のあり方を検討します。
- 「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを進めるため、マーケティング等に基づく「稼ぐ観光地」づくりに向けた取り組みを推進します。
- 達成目標として掲げた KPI について、達成状況を把握するための定期的な調査等を実施して、必要に応じて計画の見直しを柔軟に行っていく PDCA サイクルを構築していくこととします。